

◆活動団体

団体名：青石畳通り活性化委員会・松江観光協会美保関町支部

連絡先：TEL 0852-55-5956 メール：rekimachi@city.matsue.lg.jp

URL：https://www.mihonoseki-kankou.jp/see/see_aoishidatami/

◆活動内容

R4年度

●あびすライナー運行による交通利便性向上

- ・米子空港～境港駅～美保神社～美保関灯台を結ぶ直通バスを繁忙期に運行。青石畳通りへの来訪の利便性向上を目的に継続運行中。
- ・コロナ禍が落ち着き、GW、7～9月、10月～11月30日の土日祝日や正月3が日に54日間、計336便(前年比224%)運行した。
- ・本年度はクルーズ船の運行が無かったため、臨時便運行は行わなかった。
- ・運行期間中延べ707名(前年比216%)が利用、首都圏からの個人型旅行者の利便に貢献したが、コロナ禍前の水準までは、利用者を増やすことはできなかった。



●もち花まつり

- ・旧暦正月期間に閑散期対策として実施して8回目(1月20日～1月28日)。
- ・美保関に古くから伝わる正月飾り「もち花飾り(クロモジに白い餅をつけた飾り物)」の風習を後世に残していくため、青石畳通り周辺にて、この飾り付けを中心に「祭り」として風習を復活し、新春の美保関の街並みを彩り、イメージアップに貢献した。
- ・コロナ禍の影響と10年に1度の大雪により、観光客は少なかったが「もち花飾り製作」のほか、各観光関連施設にて「もち花茶」や「もち花クッキー」の販売のほか、振る舞い、香りの演出などの“おもてなし”をおこなった。
- ・祭り期間中、もち花飾り作り体験を観光客向けに実施したが参加者は4名と少なかった(昨年0名)。
- ・もち花の木(クロモジ)から取れる成分が、インフルエンザ予防にも効果があると知られるようになり、「もち花茶」を求めてリピーターが祭期間中に来訪するようになった。



●青石畳通りライトアップ～陰翳礼讃・青の共演～

- ・平成 27 年より青石畳通りを引き立てるためにライトアップを企画、令和 4 年は美保関旅館組合と協力し、蝋燭から LED 照明へ変更し 4 月から常設展示を行った。広瀬染め（藍染）の布に五本松節の歌詞や美保関を題材にした俳句・短歌などを墨で書き上げた竹細工の灯籠で通りを照らすことで、灯籠の光と青石畳通りの碧（あお）・広瀬染めの藍（あお）を陰翳礼讃青の共演と称し、歴史ある街並みを演出。夜景を目的とした誘客に寄与した。
- ・今年度もコロナ禍ということで、屋外イベントの観月祭のみイベントを開催した。



●青石畳通りガイド養成

- ・青石畳通りの成り立ちや歴史・神話及び美保神社や美保関灯台を含めた観光ガイドの育成を継続中。またジオパーク活動との連携による地質学的なガイド（敷石などの話）もできるように教育を開始。現在 5 名が対応可能。（認定ジオガイドは 1 名）
- ・一方で神社好きの女性が集う任意団体「社♡ガール」とも連携し、情報交換を行うなど、相互間でガイド要請の協力も継続的に行った。

●令和 4 年度のその他の取り組み

- ・風情ある街づくりの一環として、美術制作合宿によりご縁ができた「松江地区高校美術部生徒（10 校）」へ 3 年前より製作を依頼。青石畳通りの景観に合わせた色とデザインで製作された風鈴 84 基を設置した（7 月 27 日～8 月 31 日）。



猛暑の中、通りを抜ける風で、爽やかな音色を奏でる風鈴に、目と耳で癒される空間を演出。また来訪者の中で、撮った写真を SNS 等でアップするなど、この景観を自発的に紹介する人も多く見受けられた。

- ・個人型旅行者をターゲットに、出雲大社と美保神社の両社の参拝を促す「えびす・だいきく両参り」企画を展開。「旅行雑誌るるぶ」への掲載や自社 HP での積極的な宣伝を行ったことにより、両参りの旅行者が飛躍的に増加した。

- ・海と日本プロジェクトより松江市へ寄贈された電動アシスト自転車のうち3台が当協会へ配置されることになった。そこで4月15日(金)よりレンタルサイクルとして貸出を開始。59組73名に貸し出しを行った。



- ・5月29日(日)に「えびす・だいこく100kmマラソン大会」が3年ぶりに開催されました。当日は早朝5:10に美保神社を出発し、全国から集まった1,187人がゴールの出雲大社を目指して、美保関町内を駆け抜けました。気温が、30度を越える猛暑となり、脱水症状や熱中症により、リタイアする選手が多く、完走率は50%と過酷な大会となりました。しかし、参加された選手やボランティアスタッフ、関係者の皆様の協力によって大きなトラブルもなく大会を終えることができました。



- ・美保関町と境港市を結ぶ境水道大橋が開通して50周年を迎え、これを記念して境港市と松江市から参加者を募り、「みんなで歩こう境水道大橋」を7月23日(土)に開催。朝8時に境港台場公園をスタートして境水道大橋を渡り、美保関町日向浦で折り返して、台場公園へ10時に戻るコースを歩いた。当日は上定松江市長と伊達境港市長も一緒に参加され、さらに参加者全員にもれなく記念の缶バッジがプレゼントされた。



- ・「海と日本プロジェクト in しまね」とタイアップし、8月20日(土)松江市内の親子7組を招いて「さばける塾 in 美保関～漁港水揚げ見学と獲れたて海鮮井づくり体験～」を開催した。早朝4時40分に集合し、5時過ぎから美保関漁港にて大敷網の水揚げを見学。その日獲れたばかりの「アジ」などを仕入れて、美保関歴史・生活体験資料館調理室にて、料理研究家西本敦子先生指導のもと、魚の捌き方を教えてもらいました。参加された親子は慣れない手つきながらも、真剣な眼差しで魚を捌いていました。魚は刺身にして井ぶりへ盛り付け、地元婦人会から提供された味噌汁とともにいただきました。最後は美保関青石畳通りへ戻り、北前船によって栄えた歴史などをガイドから聞きながら見学した。



・5月のゴールデンウィークにつつじまつりを開催、フォトコンテスト、俳句川柳コンテストが行われた。

◆フォトコンテスト

最優秀作品 牧野慎平様

優秀作品 y u k k o m a n a t e l i e r 様

同 えり様

同 D Y 様

同 o j y o u c i n d y 様

同 l i t t l e _ h o p e _ 1 0 2 4 1 8 _ 2 様

同 u n o 様



◆俳句川柳コンテスト

| | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 恵比須様 | 太公望を | 引き寄せる | 松江市・女性 |
| 躑躅咲く | 紺紫の山へ | 分け入れり | 松江市・女性 |
| だっこひも | 甘くみていた | 五本松 | 松江市・女性 |
| 桃色に | ゆれし花風 | 船近づきて | 松江市・女性 |
| 海を背に | 夢を彩る | つつじ咲く | 出雲市・男性 |
| 釣り人も | 景色に染まる | 美保関 | 米子市・女性 |
| 風薫る | 美保関に | 燃ゆつつじ | 米子市・女性 |

◆合言葉ラリーにつきましては、応募者の中から抽選で6名の方を選出し、フォトコンテストや俳句川柳コンテスト受賞者と共に特産品をお送りした。

・9月1日(木)に東京オリンピックボクシング女子フェザー級金メダリストの米子市出身入江聖奈さんが、大学の夏休みで里帰り中に美保神社を参拝された。大好きなカエルの研究に専念するため、東京都内の大学院へ進学を希望しておられ、参拝された翌日が合格発表ということもあり、全国で唯一のカエルの神様を奉られた久具谷社をお参りされた。結果は見事合格とのこと。



- ・9月16日(金)に松江・安来市内の高校の美術部生徒が「松江地区高文連美術コンクール」に出品する作品製作のために美保関に3年ぶりに訪れました。美保神社や青石畳通り等作品のテーマになるスポットを探しながら散策していました。地元の方から出来上がった作品を見てみたいと多くの声をいただきましたので、学校側へお願いしたところ、選考したものを展示する場を設けることとなりました。会場や日時が決まりましたらご案内させていただきます。



- ・10月8日(土)～9日(日)の2日間、海と日本プロジェクトとのコラボ企画で、美保関灯台と灯台ビュッフェの白亜の壁面がカラフルにライトアップされ、両日で700名を超える方が来場しました。

9日はライトアップの他に美保関灯台内部の一般公開が行われ、昼夜合わせて365名の方が登上しました。普段見ることができない灯台レンズの見学者は、皆喜んでいました。また、地元シンガーソングライターのYUMIさんによる生演奏ライブも行われ、幻想的な光と音の空間の演出に、多くの方達が耳を傾け、余韻に浸っていました。

さらに11月1日の「灯台の日」にあやかり11月1日～8日を灯台ウィークとして全国の灯台でイベントが行われます。美保関灯台では11月3日(木・祝)に灯台内部一般公開を10時～16時に開催いたしますので、是非この機会に灯台へ登ってみてはいかがでしょうか？ご来場をお待ちしております。



- ・11月27日(日)メテオプラザにて隠岐航路七類港就航・境水道大橋開通50周年記念事業として「湊・交流50(ご縁)フェスティバル」が開催された。関係6市町村長によるパネルディスカッションや隠岐・美保関・境港の郷土芸能大会、地元の海や山の幸満載のお国自慢マルシェ等が行われた。

